

# やまと 民俗への招待

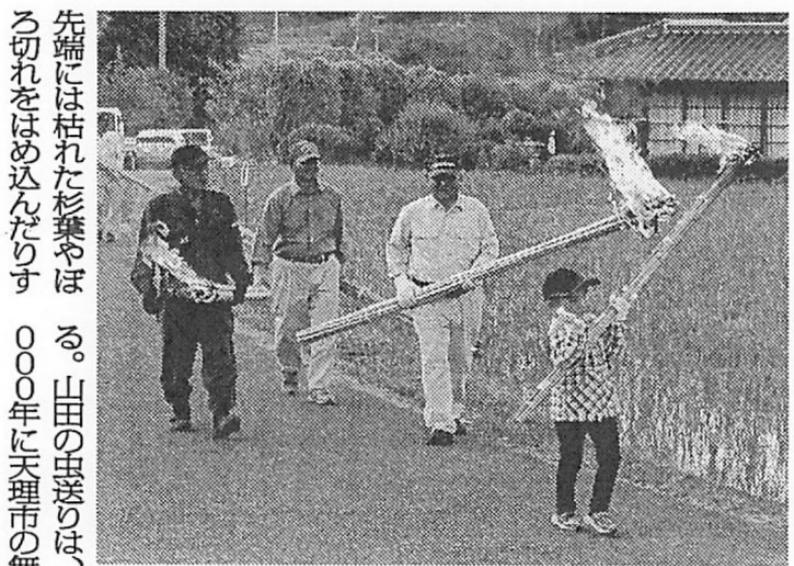
鹿谷 勲

6月16日午後4時ごろ、奈良市田原経由で天理市山田に着いた。大和高原の一郭、布目川に沿う広い谷筋の地で、上流から上山田、中山田、下山田と三つの集落がある。夕刻6時半から、時間をずらして3地区で順に虫送りが始まる。

木造瓦葺きの旧山田小学校の校舎を使った公民館で、虫送りの資料をもち、一番早く始まる下山田へ向かう。川の両側には田が広がっている。5月の連休に田植えを済ませ、苗は既に緑濃たくましいが、どの田も動物よけの電気柵が取り囲んでいる。下山田のバス停から、東に坂を上ると、同じ場所に春日神社と薬師寺が並んでいた。すでにカメラマンが数人待機している。

虫送りは、田に書なす虫を火で誘い、太鼓や鉦で囃しながら、田を巡り、集落の境で松明を捨てるもので、上北山村西原のように田はなくなっても続けている所や、十津川村のように藁でサネモリ人形を作っていた所もある。

自家製の松明を持って、土地の人が三々五々集まってくる。2分ほどの割竹を藁縄で束ねて、



松明を掲げて田を巡る山田の虫送り（下山田）

先端には枯れた杉葉やぼろ切れをはめ込んだりする。山田の虫送りは、2000年に天理市の無形

民俗文化財に指定され、以来市民が訪れ、松明を掲げて参加できるように工夫された。戸数の少ない中山田をのぞいて、毎年、上山田と下山田が交代で参加者を受け入れ、今年が上が当番だという。事前に中山田の蔵輪寺でお札の祈禱を受け、仏前の火を持ち帰る。6時半、下山田の区長のおいさつがあり、この火でトンドをして松明に点火する。

40人ほどの行列は境内から東へ上る。奥にも田が広がっている。ぐるりと回って戻り、今度は川沿いに上流へさかのぼり、橋を渡って自動車道を下流に進むと、地区の田をほぼ回った形になる。最後は、集落の北の端で、河原に松明を投げ捨て、区長が掲げてきた祈禱札を挿した。

7時半出発の中山田へ向かうと、鉦と太鼓の音がして、行列と合流した。ここでは農家組合長が祈禱札を挿す役だという。祈禱札には、「奉修虫送り書虫駆除五穀豊稔」と記されていた。上山田でも無事に虫送りが済んだよう

うで、見学者を迎えにバスが追い越していった。

## 田植えの後に虫送り

（奈良民俗文化研究所代表） 隔週掲載